

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072700632	
法人名	NPO法人 慈千会	
事業所名	グループホーム波田の家	
所在地	長野県松本市波田9465-1	
自己評価作成日	平成27年6月30日	評価結果市町村受理日 平成27年12月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/Top.do">http://www.k-kohyo.pref.nagano.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 福祉事業部
所在地	長野県松本市巾上13-6
訪問調査日	平成27年8月21日(金)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム内は常に清潔に保つよう掃除は徹底して行っている。親切、丁寧をモットーにしており、家庭的で明るい雰囲気になるよう職員全体で心がけている。食事は手作りの良さを大事にし、心を込めて食事作りに励んでいる。夏場は畑で野菜作りを通し、利用者様と共に作り、収穫を喜びあっている。本年度は、新たに300坪借りて新鮮な野菜を周年食べれる様作付けを多くした。昔からある季節の諸行事を大切に、また時には外出もし、利用者様が生き生きと暮していけるよう工夫している。運営推進会議では、10年目となり、中身も充実し、更に地域との連帯や職員の学びの場になっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは元社員寮を改築した波田の家2階建ての「本宅」と隣の家に行くような距離に平屋の「新宅」と住宅を兼ねた多目的ホール「笑凹/えくぼ」を運営し、昨年12月に波田の家10周年を祝う会を開催している。地域を熟知されている元波田町会議員でもある理事長のリーダーシップの下に、施設長始め職員一体となって家庭的なまごころのこもったケアに取り組まれている。地産地消の「食」を位置づけ、ホームに面した家庭菜園以外に300坪の畑を借り、旬の食材を活かした手作りの食事を日々提供し、また、畑作りを通して体を動かし、収穫の喜びや季節を感じながら暮らし続けていく支援に取り組んでいる。ホームページにはブログ形式でホームの生活の様子を発信したり、また、多目的ホールを兼ねた「笑凹」(えくぼ)は、家族や地域の方々に気軽に立ち寄りて頂く場として解放しており、相談や時には宿泊等も受け入れており、地域の中で事業所が果たしていく役割を明確に位置づけている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(本宅)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名( 新宅 )			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域住民との交流の下で」と謳われた理念をホールに掲げ、更にいつも目に付くように業務日誌のファイルにも掲げてある。入職時に一人ひとり印刷して渡している。</p>	<p>開所時からの理念を4年前に見直し、“地域住民との交流の下で”と謳い、共に支え合うホームを目指し、ホールには木彫の理念が掲げられている。毎朝のミーティングで日々の活動等を話し合う中で、理念の具体化・具現化を確認し合い、ケアに反映させている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>10年を超えて近所との付き合いは年々増し安定している。 当たり前前に近所の子がホームの庭で遊び、近所の農家の方は余ったものがあれば持ってきて下さり、お茶を飲んでいく。 理事長さんも利用者さんを交えてエクボで近所の人たちや野菜を持ってきてくださる方々とお茶を飲んでいる。 その他波田地区のふれあい健康教室の参加により、実家の近所の方にお会い出来たり、知り合いの方に声をかけられたり良い交流ができていると思う。また、19区の出前健康教室は恒例となり、利用者様も楽しみにしている。 地域のボランティアの方も訪れてくれる。</p>	<p>地域の一員として区費を納めることは元より、理事長・施設長はじめ職員等が地域の人であり、地域のホームとして運営にあたっており、年間を通して地域の方々から野菜や果物等のお裾分けのある関係を築いている。学生の職場体験学習の場としての受け入れを継続的に実施、また、多目的ホール(笑凹/えくぼ)を隣設し、地域の方々を受け入れる場として活用すると共に、気軽に立ち寄ってもらえる機会作りに努めている。利用者は毎月地区の健康教室に出向き、地域の参加者との交流を楽しんでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の理解や支援方法を地域の人に向けて活かしているかが課題です。先駆的に認知症講座を開かれているところに職員は見学、講習に行き、波田の家でも何かできないか、模索中です。 施設長はキャラバンメイトとして登録をした。もっと認知症講座など開けたら良い。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成18年度から欠かさず2ヶ月に1回は運営推進会議を開催している。運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議ではホームの現状や今後の予定等を詳らかに報告し、意見や要望を頂いている。議題によっては参加メンバーに柔軟性を持たせて依頼し、出席を頂きながら運営への反映に努め、ホームを知ってもらおう機会ともしている。自己・外部評価結果の報告も行い、サービス向上に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括の担当者は運推意外にも避難訓練や諸行事に参加して下さり、連携が図られていると思う。	地域包括支援センターの職員は運営推進会議や諸行事に出席して頂き、アドバイス等を受けている。また理事長は元町会議員でもあり、日頃から認知症ケアの取り組みなどについて協力関係を大切に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について会議で確認を行い、行わないようにしている。	身体拘束禁止の対象となる具体例について職員で確認を行い抑圧感の無い暮らしの支援に取り組んでいる。本宅ユニットは物理的な環境上、安全面に配慮して、玄関にすずを付ける工夫している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止関連法」については、会議で確認を行い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を使われている利用者様もいるため会議を通じて学ぶ機会を作っている。支援センターかけはしの職員とは連絡を密にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の状態を把握した上で、入居前に利用者や家族等に対し、契約書・重要事項等の説明を十分な時間をかけて行っている。また、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制ほか加算などについて詳しく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情の窓口が、ホーム・その他の機関にもあることを、重要事項説明書に記載の上説明している。(ホーム内にポスターとしても掲示)また、何でも相談していただけるように、全職員がコミュニケーションを図るよう努めており、何か問題が発生した場合はいち早く会議にかけたりして、改善に向けて対処している。	日頃から利用者や家族の思いに寄り添い、話しやすい雰囲気作りに留意し、また、介護計画の説明や意見交換時、家族の来訪時などには、その都度聞く努力をして意向の把握に努めている。把握した事項は速やかに対応し反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議(ミーティング)を実施している。その機会を利用し、運営に関する職員の意見を聞き、改善点があれば、スピーディーに解決できるよう努めている。それ以外にも理事長さんが常駐しているので、いつでも気兼ねなく訪ねて話を聞いてもらっている。	理事長・施設長は常に職員の要望や意見を聞くように努めている。毎月の職員会議や様々な係活動を通して、職員が主体的に関わりを持ち、アイデア等を提案する機会があり、出された意見等は支援に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在理事長は施設内に居住し、職員や利用者様と日常、多くの時間を共有することで職員の状況や変化、問題点の把握に努めている。27年4月にはキャリアアップが自分で確認できるような給与規定を作り介護職員の皆さんが意欲を持って仕事に迎えるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があれば、一人年一回は受講できるよう努力している。研修を終えた職員には研修報告書を提出、ミーティングにて報告してもらう。全職員に閲覧してもらう。また、施設内での研修の機会を多く取れるよう考えている。また、新人職員には有期実習型訓練を取り入れている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本市、塩尻市、安曇野市のグループホームの管理者の集いに定期的に参加し交流を深めている。相互に視察をしたり、夜職員の研修会を開いたりしている。お互いに悩み事を相談して良い知恵を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階においては、慣れない環境による不安も多いと考える。ゆったりとした態度で利用者様の態度を受け止めるよう努めている。また、利用者様のニーズ等を職員間の共通認識とし、より良いケアが行えるよう申し送りを徹底して行っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様とは、面会の度に利用者様の状況をお話しし、要望等はないかについても聞きしケアに反映させている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期段階において、利用者様、ご家族様のニーズ(要望)を把握し、ケアに反映している。また、合わせてケアを通じて必要と思われるニーズも把握しケアプランに反映し実践できるよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者様の人権を尊重し、人生の先輩として敬い、家族のようにアットホームな関係が築けるように努めている。毎日楽しく過ごしてもらえよう行事を工夫し、共に生活しながら、信頼関係が築けるよう日々心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホーム自体がアットホームな雰囲気作りに心がけており、家族が来所した時も温かく迎えるようにしている。また、家族とコミュニケーションを積極的に図るようしており、何か困ったことはないかなど、話しやすい雰囲気作りに努めている。そして、職員は、家族の思いに寄り添いながら、利用者を共に支えていくための協力関係が築けるよう心がけている。また、家族向けに月1回お便りを出したり、ホームページにブログ形式で日々の生活を綴ってご家族の方に見ていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>結婚前からのお友達と2ヶ月に一度外出するのを楽しみにしている方の外出の計画、間に入って良好な関係を築いたりする支援。 遠く離れたお兄様に、たまに電話を入れる支援。(お互い年を取って体が不自由で寝たり起きたりしていて電話で話すことでお互いいたわっている。) 友達や知り合いに年賀状や手紙を書く支援。 自宅の地区の民生委員さんが訪問して下さる支援。 馴染みの医者に通院する支援。</p>	<p>地区のふれあい健康教室に出かけ友人・知人と交流したり、定期的な外出の調整・支援、電話をかける、手紙・年賀状を書く、また家族とメールを交わすなどの支援を大切に捉え、これまでその利用者が大切にしてきた習慣や人や地域との関係が途切れ無いよう継続的に支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士よい関係ができ、会話が成立している。支えあう姿が常にみられ、ほほえましい。また、毎日隣で声をかけてくださる方やいろいろ教えてくださる姿も見られ、職員も助かっている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても、利用者やご家族の方が気軽に来所できる雰囲気作りに努めている。実際顔を出してくれるご家族もいる。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日ごろから利用者様とコミュニケーションを多くとるようにし、その中で本人のニーズ(希望)の把握に努めている。可能な限り本人様の意向に沿えるようなケアを行えるようにしている。</p>	<p>アセスメント表や「私の姿と気持ちシート」などを活用し、利用者の思いや暮らしの理解・共有を図り、職員は日々の支援の中で語りかけ、一人ひとりを注意深く見つめ意向の把握に努めている。把握した事は個人記録や支援経過記録に記し共有を図りミーティング等で検討し支援に繋いでいる。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴等の把握は、本人様からはもちろんのこと、ご家族様や関係者の方にも機会のあるごとに話の中でお聞きし、ケアに反映している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの日々の様子をよく観察し、共に過ごす時間の中でいるいるなやり取りから利用者様の心持ち等を把握している。他の職員に知らせたい事は個人記録や業務日誌に記載する。早急に解決が必要な問題はすぐ報告する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様等とお話を通じてニーズを把握し、また、職員間では会議を通じてどういうケアが必要かについて話し合いを定期的に行っている。これを元にケアプランを立てている。	介護計画作成担当者を中心に利用者の担当職員の意見や毎月のミーティングにおいて全職員で検討し、現状に即した介護計画を作成し、家族来訪時や遠方の家族には電話等により話し合い、意向・意見等聞き、計画に反映させている。支援経過記録や個人記録を元に定期的・随時の見直しが行われている。	利用者のADL評価やアセスメント表・「私の姿と気持ちシート」の活用や、ミーティングに於いて検討が行われ丁寧に取り組まれている。介護計画(ニーズや目標・支援内容等)に基づいた記録や評価等(モニタリング)がより適切になされるよう希望する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録を活用し、利用者様にニーズを把握し共通認識としている。また、これを元にケアプランの見直しも随時行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者とその家族が要望を気軽に話せる雰囲気作り心がけており、その都度臨機応変に対応するようにしている。外出への支援や外泊への支援も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、警察・消防・ご近所の方・地域包括センターの方などにも出席してもらっており、当グループホームを多くの地域の人に知ってもらう機会作りをしている。また、民生委員やボランティアの訪問も積極的に受け入れている。学生さんの職場体験や実習のお手伝いもしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、今までかかっていた病院も考慮し引き続き同じ病院に受診している場合もある。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し、協力医への変更の場合も納得が得られるよう努めている。通院はできる限り家族同行を基本としているが、緊急時や場合によっては職員が対応している。協力医療機関や地域の病院等の医療連携も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は常駐しているため、一日の中で随時にコミュニケーションをとるように努めている。問題等が発生した場合も、スピーディーな対応に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日頃から入院でお世話になることが多い病院のケースワーカーさん等ともコミュニケーションを取るようしており入院があった場合も何でも話し合える関係づくりに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所の段階で、重度化や終末期に向けた利用者様やご家族様のニーズの把握に努めている。実際に終末期に向かう段階においても、何度もニーズの確認を行い希望に沿えるよう努めている。</p>	<p>入所時に、重度化した場合における指針(看とりの指針)を渡し説明を行い、利用者・家族の意向を把握している。状況に応じて意向の確認・話し合いをその都度重ね、ホームが対応しうるケアについて共有を図り、看とり支援に取り組んだ事例がある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に救急救命講習を施設内で受けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回は昼・夜を想定した「消火・避難訓練」を、利用者も交えて実施している。また、いざという時に地域の方にも火事であることを知らせ、助けを求めため、「外用非常ベル」も設置した。さらに、地域の消防団の方にも声をかけ、グループホームの視察に来てもらい、いざという時のための協力もお願いしている。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施。今年度は夜間を想定し、消防団や地域包括の担当者・地域の方々等の理解や参加を頂きながら行っている。消防署の講評や運営推進会議等で意見を頂きながら、いざという時のために備え改善(避難経路やベル等)を重ね協力体制を築くよう努力している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉遣いや接遇は、日頃から一番気をつけるよう理事長から職員に指導がある。また、プライバシーの保護については、会議の折に職員に話して、最善の注意を払うように努めている。	日頃から言葉使い等の接遇について理事長・施設長始め全職員が注意を払って支援にあたり、「親しき仲にも礼儀あり」として、気になる言動についてはその都度、また、ミーティング時に共有を図り、ホーム全体で取り組んでいる。また、近日中に研修を予定し準備中である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したくないことは無理強いをせず意見を尊重している。自らやったださるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時々々の身体的・精神的状況を把握し、その人のペースにあった1日がおくれるよう支援している。ホームの1日の流れが優先ではなく、その人に応じた臨機応変な対応に心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも通っていた美容院がある方は継続してその美容院を利用したりしている。身だしなみに関しては、清潔感が保てるように配慮している。理事長さんや職員が散髪をホーム内でおこなっている。また、その人その人に合わせたおしゃれが楽しめるよう援助している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には旬なものを取り入れるように心掛けている。ふきの皮むき、干し柿など利用者様と一緒に作っている。「何食べたい？」などと聞きながら、食事が毎日の楽しみになるように考えている。おかわりをする方もいる。毎日の食事の野菜の下ごしらえなど積極的にして下さる。	食を大切な支援と位置づけ、地産地消・旬の食材を元に家庭的な食文化を大切にしている。利用者の気持ちや力に添い、無理の無い範囲で、下ごしらえ・味見・盛りつけ等を一緒に行い、職員・利用者共に食卓を囲み、笑顔のある楽しい時間を過ごしている。季節毎の食の楽しみ(外食・流しラーメン・豆の皮むき・煮豆等)も様々支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援                      食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎日の食事内容を記録し、利用者が食事を残した場合の量も記録している。水分は毎食時やおやつ時に提供し、どの程度水分摂取できているか、おおよその量を把握して脱水に気を配っている。暑い時は多目の水分を心掛ける。食事がとれない方にはそれに応じた食品を提供している。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持                      口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後のはみがき、週一回のポリドントをおこなっている。自分でうまくできない方は介助し清潔にしている。できる方にはご本人にやってみて頂く。入れ歯の消毒も行っている。</p>		
43	(16)	<p>排泄の自立支援                      排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>利用者様の出来ること出来ないことを細かく把握し、できない部分をフォローしながら、少しでも自立出来るようなケアに努めている。立てない人以外はトイレでの排泄を目標に誘導している。</p>	<p>利用者一人ひとりの心身の状況に応じて排泄用品や排泄の方法を見極め、トイレでの排泄を基本支援としながら、個別のさりげない排泄を支援している。トイレの清潔や安全面に留意し、気持ちよい環境を整えている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応                      便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘予防のため、運動や食べ物の工夫。(繊維質の摂取、水分不足の予防等)をしている。</p>		
45	(17)	<p>入浴を楽しむことができる支援                      一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>入浴日は一応設定しているが、必要な時はいつでも入浴可能な体制にはなっている。</p>	<p>入浴日は決められてはいるが、状況に応じて、こまめに足浴をしたり、いつでも入浴できる体制を整えている。身体状態に応じて、2人介助やリフト浴等の個別支援を行い、また、同性介護などへの配慮も含め、気持ちよい入浴を支援している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援                      一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、利用者一人ひとりに合わせ、ふとん、服、温度調整など行っている。時にはフロアのソファやベットで休まれたり、その人の過ごしたい場所で過ごされる様に見守っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p><b>服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個々の飲んでる薬の用法、副作用等はいつでも見れるようにしており、また、把握に努めている。 毎日飲む薬に“何の薬か”ということを表示しており、服用介助をする度に確認出来るようにしている。</p>		
48		<p><b>役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>四季折々のお花見や外出に出かけることを楽しみにしている。月ごとに行う誕生会も楽しみの一つでみんなに祝ってもらうことを楽しみにしている。</p>		
49	(18)	<p><b>日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>必要や要望があればいつでも出かける支援ができています。</p>	<p>日常的にはホーム周辺の散歩、草花を眺めながらのユニット間(本宅・新宅)の行き来、広い庭の木陰でお茶の一時を過ごすなど、陽を浴びる支援を大切にしている。また季節毎の花見や外食などの計画的な外出の他、利用者の希望に添い個別の(買い物等)外出も対応し、支援できる体制も整っている。</p>	
50		<p><b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者によっては、(金銭管理が可能な方に対しては)お金を自分で持って管理していらっしゃる方もいる。また、そのお金を使って買い物に行くこともある。</p>		
51		<p><b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話に関しては、耳の遠い方の場合、間に立って援助したりもしている。お友達や家族、兄弟と楽しそうに電話をする姿が見受けられる。手紙も、やり取りができるよう支援している。頻繁に出す方もいる。外国にご家族が住まわれている方とはメールでやり取りをする。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室(一部を除く)や居間は南向きに配置しており、自然な明るさを維持している。照明や音量等は時間帯に応じて注意して対応している。また、ホーム内には季節の花を飾るように心がけている。ベランダにも花を飾って楽しんでいる。居間や居室の窓からは、景色が見え、夏は畑を作るので、その成長を楽しみながら暮らしている。	ホームの中は清潔をモットーに掃除が行き届き、気持ちよい環境を整え、ホールからは広がりのある草木等の景色を臨み、季節の移ろいを楽しめる環境となっている。小上がりの畳の部屋(冬期は炬燵設置)に季節の花が飾られ、ベレットストーブ・ソファ・ピアノ等が配置され、心地よく過ごせる共用の場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓だけでなく、ソファやこたつなどがあり、また、廊下、玄関先にはベンチが設置されていて、それぞれの利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるような環境になっている。最近、ソファでくつろぎ話をする事が多く見受けられる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人の個性を大切にした居室になっている。自分でできることはご自分でしていただいている。筆記用具、裁縫道具など必要なものは用意するようにしている。	ベッドやタンス・衣装ケースなどの生活必需品を思い思いに持ち込んで頂き、大切な家族の写真等を飾るなど、その人らしく安心して過ごせる居室環境となるよう工夫や配慮に取り組んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所している方に合わせてトイレ、洗面、ふろなど、出来る範囲で改装をしより利用者様にとって良い環境づくりを考えている。26年1月には新宅の風呂にリフトを設置した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「地域住民との交流の下で」と謳われた理念をホールに掲げ、更にいつも目に付くように業務日誌のファイルにも掲げてある。入職時に一人ひとり印刷して渡している。</p>	<p>開所時からの理念を4年前に見直し、“地域住民との交流の下で”と謳い、共に支え合うホームを目指し、ホールには木彫の理念が掲げられている。毎朝のミーティングで日々の活動等を話し合う中で、理念の具体化・具現化を確認し合い、ケアに反映させている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>10年を超えて近所との付き合いは年々増し安定している。</p> <p>当たり前前に近所の子がホームの庭で遊び、近所の農家の方は余ったものがあれば持ってきて下さり、お茶を飲んでいく。</p> <p>理事長さんも利用者さんを交えてエクボで近所の人たちや野菜を持ってきてくださる方々とお茶を飲んでいる。</p> <p>その他波田地区のふれあい健康教室の参加により、実家の近所の方にお会い出来たり、知り合いの方に声をかけられたり良い交流ができていると思う。また、19区の出前健康教室は恒例となり、利用者様も楽しみにしている。</p> <p>地域のボランティアの方も訪れてくれる。</p>	<p>地域の一員として区費を納めることは元より、理事長・施設長はじめ職員等が地域の人であり、地域のホームとして運営にあたっており、年間を通して地域の方々から野菜や果物等のお裾分けのある関係を築いている。学生の職場体験学習の場としての受け入れを継続的に実施、また、多目的ホール(笑凹/えくぼ)を隣設し、地域の方々を受け入れる場として活用すると共に、気軽に立ち寄ってもらえる機会作りに努めている。利用者は毎月地区の健康教室に出向き、地域の参加者との交流を楽しんでいる。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の理解や支援方法を地域の人に向けて活かしているかが課題です。先駆的に認知症講座を開かれているところに職員は見学、講習に行き、波田の家でも何かできないか、模索中です。</p> <p>施設長はキャラバンメイトとして登録をした。もっと認知症講座など開けたら良い。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>平成18年度から欠かさず2ヶ月に1回は運営推進会議を開催している。運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議ではホームの現状や今後の予定等を詳らかに報告し、意見や要望を頂いている。議題によっては参加メンバーに柔軟性を持たせて依頼し、出席を頂きながら運営への反映に努め、ホームを知ってもらおう機会ともしている。自己・外部評価結果の報告も行い、サービス向上に努めている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括の担当者は運推意外にも避難訓練や諸行事に参加して下さり、連携が図られていると思う。	地域包括支援センターの職員は運営推進会議や諸行事に出席して頂き、アドバイス等を受けている。また理事長は元町会議員でもあり、日頃から認知症ケアの取り組みなどについて協力関係を大切に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について会議で確認を行い、行わないようにしている。	身体拘束禁止の対象となる具体例について職員で確認を行い抑圧感の無い暮らしの支援に取り組んでいる。本宅ユニットは物理的な環境上、安全面に配慮して、玄関にすずを付ける工夫している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止関連法」については、会議で確認を行い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に成年後見制度を使われている利用者様もいるため会議を通じて学ぶ機会を作っている。支援センターかけはしの職員とは連絡を密にしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者の状態を把握した上で、入居前に利用者や家族等に対し、契約書・重要事項等の説明を十分な時間をかけて行っている。また、利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応、医療連携体制ほか加算などについて詳しく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満・苦情の窓口が、ホーム・その他の機関にもあることを、重要事項説明書に記載の上説明している。(ホーム内にポスターとしても掲示)また、何でも相談していただけるように、全職員がコミュニケーションを図るよう努めており、何か問題が発生した場合はいち早く会議にかけたりして、改善に向けて対処している。	日頃から利用者や家族の思いに寄り添い、話しやすい雰囲気作りに留意し、また、介護計画の説明や意見交換時、家族の来訪時などには、その都度聞く努力をして意向の把握に努めている。把握した事項は速やかに対応し反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議(ミーティング)を実施している。その機会を利用し、運営に関する職員の意見を聞き、改善点があれば、スピーディーに解決できるよう努めている。それ以外にも理事長さんが常駐しているので、いつでも気兼ねなく訪ねて話を聞いてもらっている。	理事長・施設長は常に職員の要望や意見を聞くように努めている。毎月の職員会議や様々な係活動を通して、職員が主体的に関わりを持ち、アイデア等を提案する機会があり、出された意見等は支援に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在理事長は施設内に居住し、職員や利用者様と日常、多くの時間を共有することで職員の状況や変化、問題点の把握に努めている。27年4月にはキャリアアップが自分で確認できるような給与規定を作り介護職員の皆さんが意欲を持って仕事に迎えるよう努力している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内があれば、一人年一回は受講できるよう努力している。研修を終えた職員には研修報告書を提出、ミーティングにて報告してもらう。全職員に閲覧してもらう。また、施設内での研修の機会を多く取れるよう考えている。また、新人職員には有期実習型訓練を取り入れている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松本市、塩尻市、安曇野市のグループホームの管理者の集いに定期的に参加し交流を深めている。相互に視察をしたり、夜職員の研修会を開いたりしている。お互いに悩み事を相談して良い知恵を出し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期段階においては、慣れない環境による不安も多いと考える。ゆったりとした態度で利用者様の態度を受け止めるよう努めている。また、利用者様のニーズ等を職員間の共通認識とし、より良いケアが行えるよう申し送りを徹底して行っている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご家族様とは、面会の度に利用者様の状況をお話しし、要望等はないかについても聞きし、ケアに反映させている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期段階において、利用者様、ご家族様のニーズ(要望)を把握し、ケアに反映している。また、合わせてケアを通じて必要と思われるニーズも把握しケアプランに反映し実践できるよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員は利用者様の人権を尊重し、人生の先輩として敬い、家族のようにアットホームな関係が築けるように努めている。毎日楽しく過ごしてもらえよう行事を工夫し、共に生活しながら、信頼関係が築けるよう日々心がけている。</p>		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ホーム自体がアットホームな雰囲気作りに心がけており、家族が来所した時も温かく迎えるようにしている。また、家族とコミュニケーションを積極的に図るようしており、何か困ったことはないかなど、話しやすい雰囲気作りに努めている。そして、職員は、家族の思いに寄り添いながら、利用者を共に支えていくための協力関係が築けるよう心がけている。また、家族向けに月1回お便りを出したり、ホームページにブログ形式で日々の生活を綴ってご家族の方に見ていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>結婚前からのお友達と2ヶ月に一度外出するのを楽しみにしている方の外出の計画、間に入って良好な関係を築いたりする支援。</p> <p>遠く離れたお兄様に、たまに電話を入れる支援。(お互い年を取って体が不自由で寝たり起きたりして電話で話すことでお互いいたわっている。)</p> <p>友達や知り合いに年賀状や手紙を書く支援。</p> <p>自宅の地区の民生委員さんが訪問して下さる支援。</p> <p>馴染みの医者に通院する支援。</p>	<p>地区のふれあい健康教室に出かけ友人・知人と交流したり、定期的な外出の調整・支援、電話をかける、手紙・年賀状を書く、また家族とメールを交わすなどの支援を大切に捉え、これまでその利用者が大切にしてきた習慣や人や地域との関係が途切れ無いよう継続的に支援している。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者様同士よい関係ができ、会話が成立している。支えあう姿が常に見られ、ほほえましい。また、毎日隣で声をかけてくださる方やいろいろ教えてくださる姿も見られ、職員も助かっている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービスが終了しても、利用者やご家族の方が気軽に来所できる雰囲気作りに努めている。実際顔を出してくれるご家族もいる。</p>		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日ごろから利用者様とコミュニケーションを多くとるようにし、その中で本人のニーズ(希望)の把握に努めている。可能な限り本人様の意向に沿えるようなケアを行えるようにしている。</p>	<p>アセスメント表や「私の姿と気持ちシート」などを活用し、利用者の思いや暮らしの理解・共有を図り、職員は日々の支援の中で語りかけ、一人ひとりを注意深く見つめ意向の把握に努めている。把握した事は個人記録や支援経過記録に記し共有を図りミーティング等で検討し支援に繋いでいる。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>生活歴等の把握は、本人様からはもちろんのこと、ご家族様や関係者の方にも機会のあるごとに話の中でお聞きし、ケアに反映している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は一人ひとりの日々の様子をよく観察し、共に過ごす時間の中でいるいろいろなやり取りから利用者様の心持ち等を把握している。他の職員に知らせたい事は個人記録や業務日誌に記載する。早急に解決が必要な問題はすぐ報告する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様やご家族様等とお話を通じてニーズを把握し、また、職員間では会議を通じてどういうケアが必要かについて話し合いを定期的に行っている。これを元にケアプランを立てている。	介護計画作成担当者を中心に利用者の担当職員の意見や毎月のミーティングにおいて全職員で検討し、現状に即した介護計画を作成し、家族来訪時や遠方の家族には電話等により話し合い、意向・意見等聞き、計画に反映させている。支援経過記録や個人記録を元に定期的・随時の見直しが行われている。	利用者のADL評価やアセスメント表・「私の姿と気持ちシート」の活用や、ミーティングに於いて検討が行われ丁寧に取り組まれている。介護計画(ニーズや目標・支援内容等)に基づいた記録や評価等(モニタリング)がより適切になされるよう希望する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録を活用し、利用者様にニーズを把握し共通認識としている。また、これを元にケアプランの見直しも随時行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者とその家族が要望を気軽に話せる雰囲気作り心がけており、その都度臨機応変に対応するようにしている。外出への支援や外泊への支援も行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では、警察・消防・ご近所の方・地域包括センターの方などにも出席してもらっており、当グループホームを多くの地域の人に知ってもらう機会作りをしている。また、民生委員やボランティアの訪問も積極的に受け入れている。学生さんの職場体験や実習のお手伝いもしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、今までかかっていた病院も考慮し引き続き同じ病院に受診している場合もある。	本人や家族が希望するかかりつけ医の受診を支援し、協力医への変更の場合も納得が得られるよう努めている。通院はできる限り家族同行を基本としているが、緊急時や場合によっては職員が対応している。協力医療機関や地域の病院等の医療連携も図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員は常駐しているため、一日の中で随時にコミュニケーションをとるように努めている。問題等が発生した場合も、スピーディーな対応に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>日頃から入院でお世話になることが多い病院のケースワーカーさん等ともコミュニケーションを取るようしており入院があった場合も何でも話し合える関係づくりに努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所の段階で、重度化や終末期に向けた利用者様やご家族様のニーズの把握に努めている。実際に終末期に向かう段階においても、何度もニーズの確認を行い希望に沿えるよう努めている。</p>	<p>入所時に、重度化した場合における指針(看とりの指針)を渡し説明を行い、利用者・家族の意向を把握している。状況に応じて意向の確認・話し合いをその都度重ね、ホームが対応しうるケアについて共有を図り、看とり支援に取り組んだ事例がある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に救急救命講習を施設内で受けている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回は昼・夜を想定した「消火・避難訓練」を、利用者も交えて実施している。また、いざという時に地域の方にも火事であることを知らせ、助けを求めるため、「外用非常ベル」も設置した。さらに、地域の消防団の方にも声をかけ、グループホームの視察に来てもらい、いざという時のための協力もお願いしている。</p>	<p>年2回の避難訓練を実施。今年度は夜間を想定し、消防団や地域包括の担当者・地域の方々等の理解や参加を頂きながら行っている。消防署の講評や運営推進会議等で意見を頂きながら、いざという時のために備え改善(避難経路やベル等)を重ね協力体制を築くよう努力している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対する言葉遣いや接遇は、日頃から一番気をつけるよう理事長から職員に指導がある。また、プライバシーの保護については、会議の折に職員に話して、最善の注意を払うように努めている。	日頃から言葉使い等の接遇について理事長・施設長始め全職員が注意を払って支援にあたり、「親しき仲にも礼儀あり」として、気になる言動についてはその都度、また、ミーティング時に共有を図り、ホーム全体で取り組んでいる。また、近日中に研修を予定し準備中である。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	したくないことは無理強いをせず意見を尊重している。自らやったださるよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその時々々の身体的・精神的状況を把握し、その人のペースにあった1日がおくれるよう支援している。ホームの1日の流れが優先ではなく、その人に応じた臨機応変な対応に心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも通っていた美容院がある方は継続してその美容院を利用したりしている。身だしなみに関しては、清潔感が保てるように配慮している。理事長さんや職員が散髪をホーム内でおこなっている。また、その人その人に合わせたおしゃれが楽しめるよう援助している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事には旬なものを取り入れるように心掛けている。ふきの皮むき、干し柿など利用者様と一緒に作っている。「何食べたい？」などと聞きながら、食事が毎日の楽しみになるように考えている。おかわりをする方もいる。毎日の食事の野菜の下ごしらえなど積極的にして下さる。	食を大切な支援と位置づけ、地産地消・旬の食材を元に家庭的な食文化を大切にしている。利用者の気持ちや力に添い、無理の無い範囲で、下ごしらえ・味見・盛りつけ等を一緒に行い、職員・利用者共に食卓を囲み、笑顔のある楽しい時間を過ごしている。季節毎の食の楽しみ(外食・流しソーメン・豆の皮むき・煮豆等)も様々支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事内容を記録し、利用者が食事を残した場合の量も記録している。水分は毎食時やおやつ時に提供し、どの程度水分摂取できているか、おおよその量を把握して脱水に気を配っている。暑い時は多目の水分を心掛ける。食事がとれない方にはそれに応じた食品を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のはみがき、週一回のポリドントをおこなっている。自分でうまくできない方は介助し清潔にしている。できる方にはご本人にやって頂く。入れ歯の消毒も行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の出来ること出来ないことを細かく把握し、できない部分をフォローしながら、少しでも自立出来るようなケアに努めている。立てない人以外はトイレでの排泄を目標に誘導している。	利用者一人ひとりの心身の状況に応じて排泄用品や排泄の方法を見極め、トイレでの排泄を基本支援としながら、個別のさりげない排泄を支援している。トイレの清潔や安全面に留意し、気持ちよい環境を整えている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、運動や食べ物の工夫。(繊維質の摂取、水分不足の予防等)をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応設定しているが、必要な時はいつでも入浴可能な体制にはなっている。	入浴日は決められてはいるが、状況に応じて、こまめに足浴をしたり、いつでも入浴できる体制を整えている。身体状態に応じて、2人介助やリフト浴等の個別支援を行い、また、同性介護などへの配慮も含め、気持ちよい入浴を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。また、利用者一人ひとりに合わせ、ふとん、服、温度調整など行っている。時にはフロアのソファやベッドで休まれたり、その人の過ごしたい場所で過ごされる様に見守っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の飲んでいる薬の用法、副作用等はいつでも見れるようにしており、また、把握に努めている。毎日飲む薬に“何の薬か”ということを表示しており、服用介助をする度に確認出来るようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	四季折々のお花見や外出に出かけることを楽しみにしている。月ごとに行う誕生会も楽しみの一つでみんなに祝ってもらうことを楽しみにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	必要や要望があればいつでも出かける支援ができています。	日常的にはホーム周辺の散歩、草花を眺めながらのユニット間(本宅・新宅)の行き来、広い庭の木陰でお茶の一時を過ごすなど、陽を浴びる支援を大切にしている。また季節毎の花見や外出などの計画的な外出の他、利用者の希望に添い個別の(買い物等)外出も対応し、支援できる体制も整っている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者によっては、(金銭管理が可能な方に対しては)お金を自分で持って管理していらっしゃる方もいる。また、そのお金を使って買い物に行くこともある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては、耳の遠い方の場合、間に立って援助したりもしている。お友達や家族、兄弟と楽しそうに電話をする姿が見受けられる。手紙も、やり取りができるよう支援している。頻繁に出す方もいる。外国にご家族が住まわれている方とはメールでやり取りをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室(一部を除く)や居間は南向きに配置しており、自然な明るさを維持している。照明や音量等は時間帯に応じて注意して対応している。また、ホーム内には季節の花を飾るように心がけている。ベランダにも花を飾って楽しんでいる。居間や居室の窓からは、景色が見え、夏は畑を作るので、その成長を楽しみながら暮らしている。	ホームの中には清潔をモットーに掃除が行き届き、気持ちよい環境を整え、ホールからは広がりのある草木等の景色を臨み、季節の移ろいを楽しめる環境となっている。小上がりの畳の部屋(冬期は炬燵設置)に季節の花が飾られ、ベレットストーブ・ソファ・ピアノ等が配置され、心地よく過ごせる共用の場となっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓だけでなく、ソファやこたつなどがあり、また、廊下、玄関先にはベンチが設置されていて、それぞれの利用者が思い思いの場所で自由に過ごせるような環境になっている。最近、ソファでくつろぎ話をする事が多く見受けられる。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人個人の個性を大切にした居室になっている。自分でできることはご自分でしていただいている。筆記用具、裁縫道具など必要なものは用意するようにしている。	ベッドやタンス・衣装ケースなどの生活必需品を思い思いに持ち込んで頂き、大切な家族の写真等を飾るなど、その人らしく安心して過ごせる居室環境となるよう工夫や配慮に取り組んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所している方に合わせてトイレ、洗面、ふろなど、出来る範囲で改装をしより利用者様にとって良い環境づくりを考えている。26年1月には新宅の風呂にリフトを設置した。		

## 目標達成計画

作成日: 平成27年9月24日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	日々の記録や評価の中に、ケアプランの内容がどうだったかの記載が少ない。	毎日の生活の中で、介護職員がケアプランを意識し個人記録等で振り返り、評価等をしていく体制を作る。	・ケアプランの掲示を工夫する。 ・個人記録等の研修を行う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。